

荒川地区の開発

荒川公民館長 野口昭治

荒川大橋上流千メートルほどの荒川神社境内に根府川石に刻まれた「熊谷第一区画整理竣工記念碑」があります。

これは、荒川通り西側の整理を記念したもので、裏面には当時、工事に係わった人々の名と事業の概要が記されています。戦争の最中のことです。

整地面積 二十三万坪余

整地費用 十万円余

組合認可 昭和十二年二月

竣工 昭和十八年四月

荒川地区では市政施行当時、鎌倉町四丁目に属していましたが、区画整理中に町名が決められ、竣工の年の十月に荒川区と改称しました。

荒川大橋東方の堤防は、昭和十八年に着工し、二十六年に完成しました。これが今の「桜土手」で旧桜土手は取り壊されました。

新堤防完成に伴い、やがて第二区画整理が終了し、ここに荒川地区の形が整ったわけです。

迅速図によると、この地方は一面桑園と遊水池であり、たびたびの洪水で悩まされていた地域でありましたが、整理が済むと住宅が増加し発展してきました。

昭和二十九年の社会調査（荒川地区）によると、家庭菜園による自給率が三十三%に及び、この地区に住み着いて十年未満の家庭が七十四%で、十年以上は十五%に過ぎなかったのです。

この頃、人々の悩みや課題は、環境衛生、社会施設、洪水の心配等でしたが、昭和四十年前後より徐々に解消され、公園、保育所、消防、護岸等も整備され、生活の基盤も整ってきました。

このように若い地域が荒川地区なのです。



(熊谷市公連だより 第2号 平成19年より)